

令和 3 年度業務実績評価書（令和 4 年 8 月 30 日）における指摘事項への対応状況

第 2 総合評定

該当事項	大臣評価指摘事項	国立環境研究所の講じた措置
環境研究に関する業務	第 5 期中長期目標・計画の初年度であり、次年度以降も中長期目標・計画に基づいた研究体制の下でも、「研究開発成果の最大化」が一層図られるよう、個別分野を超えた連携による統合的な研究や基礎・基盤的取組の推進、研究開発成果の社会実装・社会貢献を推進するための連携支援機能の強化等を着実に実施していただきたい。【令和 3 年度】	戦略的研究プログラム、二大事業をはじめとして、先見的・先端的な基礎研究、政策対応研究、知的研究基盤整備を含め全般的に外部研究評価委員会において高い評価結果を得ました。これらの枠を超えた連携を図るとともに、国内外の様々な研究機関と共同研究・協力協定を締結し、社会実装・社会貢献の推進を図る等、研究開発成果の最大化を進めています。

第 3 研究開発の成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項

該当事項	大臣評価指摘事項	国立環境研究所の講じた措置
1. 環境研究に関する業務		
(1) 重点的に取り組むべき課題への統合的な研究の推進	野生生物感染症に関するモニタリング手法高度化などについては、人獣共通感染症、高危険度ウイルス感染症なども考慮し、ヒトへの影響も予測できるシステムとして社会実装できることを期待します。【令和 3 年度】	感染症対策においては、人獣共通感染症関連の機関との連携を強化し、ヒトへの影響予測への発展も考慮しつつ検討を進めています。
	太陽光発電施設による土地改変と生物多様性、生態系サービスの維持は、今後益々重要になるテーマであり、進展を期待したい【令和 3 年度】	引き続き気候危機対応イニシアティブでの所内連携により研究を進めるとともに、環境省環境研究総合推進費課題「生物多様性と社会経済的要因の統合評価モデルの構築と社会適用に関する研究」においても検討を行い、環境省とも緊密に連携をとって進めました。
(2) 環境の保全に関する科学的知見の創出等の推進	データベースの整理や標本の収集は成果が目立ちにくいですが、国の文化的成熟度を示す意味でも重要な業務。たとえば WebKis-Plus は相当利用されていると思うので、アクセス数などを成果として示してはどうか。【令和 3 年度】	成果の指標として、データベースへのアクセス数を、機械的アクセス等のノンヒューマンアクセスも含めない、より適切な形で示せるよう検討を進めています。
(3) 国の計画に基づき中長期目標期間を超えて実施する事業の着		

実な推進		
(4) 国内外機関との連携及び政策貢献を含む社会実装の推進		
2. 環境情報の収集、整理及び提供に関する業務		
3. 気候変動適応に関する業務		

第4 業務運営の効率化に関する事項

該当事項	大臣評価指摘事項	国立環境研究所の講じた措置
1. 業務改善の取組に関する事項	引き続き適切な予算の執行・管理体制の維持に努められたい。【令和3年度】	<p>引き続き、財務会計システムによるリアルタイムな予算管理を行うとともに、定期的に予算執行状況の確認を行い、理事会への報告を行いました。</p> <p>また、調達等合理化計画に基づく取組を適切に実施しました。特に、一者応札・応募の低減に向けた取組として、公告期間の延長に加え、令和4年度は以下の取組を行い、一者応札の改善や応札機会の拡大を図るとともに、特例随意契約の件数の増加により、競争性及び透明性を確保しつつ、昨年度以上に研究開発の促進や所内全体の事務効率化にも寄与しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子入札システム適用比率の大幅な上昇 ・調達情報サイトの関係団体との相互リンク ・事業者の履行準備期間確保を含む事業者の適正な履行期間の設定 ・履行が見込まれる者への公告情報の案内
2. 業務の電子化に関する事項		

第5 財務内容の改善に関する事項

該当事項	大臣評価指摘事項	国立環境研究所の講じた措置
財務内容の改善に関する事項	運営戦略会議において研究施設や高額な研究機器の計画的・効率的な利活用や、今後の長期的な大型研究施設の在り方などについて議論を引き続き進められたい。【令和3年度】	引き続き運営戦略会議で研究所の運営方針を考慮しつつ大型研究施設の計画的・効率的な利活用に向けた議論を進め、「大型施設検討委員会」においては今後の長期的な大型研究施設の在り方・将来計画策定を見据えた所内調査を行いました。

第6 その他の業務運営に関する重要事項

該当事項	大臣評価指摘事項	国立環境研究所の講じた措置
1. 内部統制の推進		
2. 人事の最適化		
3. 情報セキュリティ対策等の推進	全職員を対象とした情報セキュリティ研修等の受講率 100%達成を継続し意識の向上が図られている。引き続き、情報セキュリティインシデントの発生防止及び発生時における適切かつ迅速な対応による被害の拡大防止に努められたい。【令和3年度】	情報セキュリティ研修受講率及び自己点検実施率は昨年に引き続き 100%を達成しました。また、CSIRT 要員を対象に実際のインシデント発生を想定した模擬訓練を実施したほか、所外研修等にもオンライン参加し、実践的な対処方法などの最新の知見を集積している。エンドポイント対策として、次世代セキュリティ対策ソフトを運用し、端末の利用場所を問わないセキュリティ対策強化を図り、セキュリティログ監視の対象にエンドポイントセキュリティ対策ソフト監視用サービスを新たに組み入れ、不審な動作を監視し、インシデントの発生防止に努めている。
4. 施設・設備の整備及び管理運用	施設・設備の整備及び管理運用については、老朽化対策も含めて適切に実施されたい。【令和3年度】	施設管理・整備（建築・機械）の経験を有する者として二名を中途採用し、体制の強化を図りました。建物の老朽化に関しては動物実験2棟老朽化施設他更新工事、特別高圧受変電施設老朽化緊急対策整備工事に着工しました。また令和4年度補正予算による中央監視制御システム刷新省エネ化整備工事に着手しました。
5. 安全衛生管理の充実		
6. 業務における環境配慮等		